

## 講師

公益財団法人 日本対がん協会 会長

垣添 忠生 先生



参加無料  
事前申込み不要

## 演題

# 「人はがんとどう向き合うか？」

## 講演要旨

がんも多彩なら、それに罹る人間も一人ひとり極めて多様である。その組合せはほとんど無制限ともいえる多様性に富んでいる。最初に、この事実を伝え、がんに向き合うのに強い人もいれば弱い人もいる。医療はそれらの人々をすべて包摂してある、ことをお伝えしたい。私の妻はわずか4ミリで発見した小細胞肺癌を治すことができなかった。1年半にわたる彼女の闘病と、私が自宅で一人で看取った経験をお話ししたい。40年来の配偶者を喪った後の私の苦悩と再生の記録もお伝えしたい。がん患者の後には膨大な数の遺族もいるということを忘れないようにしたいものである。最後に、人はか弱くはかない存在に見えるが、また極めて強靱な存在でもある。その実例を種々お話し、人は希望があれば生きられる、生きていけるのだ、という事実をお伝えしたい。がんをモデルとしているが、人は病とどう向き合うか、ということに話が広がれば嬉しい。

## プロフィール

生年月日：昭和16年4月10日 出生地：大阪 1967年東京大学医学部医学科卒業。同年東京大学附属病院で研修し、都立豊島病院、医療法人藤間病院外科に勤務後、1972年東京大学医学部泌尿器科文部教官助手。この頃から膀胱がんの基礎研究に携わり、大学の勤務終了後、夜国立がんセンター研究所に通って研究を続ける。1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務し、1987年同病院手術部長、第一病棟部長、副院長を経て、1992年1月に病院長、同年7月に中央病院長、2002年4月総長に就任し、2007年4月国立がんセンターを退職し、同名誉総長、財団法人日本対がん協会会長に就任。専門は泌尿器科学だが、発がん全般、特に膀胱発がん、前立腺発がんについては今も強い関心をもっている。立場上、がんの診断、治療、予防に幅広く関わり、全がんに目配りしてきた。がん予防、がん検診、緩和医療に対する関心も強い。国立がんセンター一田宮賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、瑞宝重光章などを受賞。

主な著書：発がんからみた膀胱がんの臨床（メディカル・ビュー社）、がんと人間（共著 岩波新書）、患者さんと家族のためのがんの最新医療（岩波書店）、前立腺がんが死なないために（中央公論社）、妻を看取る日（新潮社）、悲しみの中にあるあなたへの処方箋（新潮社）、がんと人生（中央公論新社）、巡礼日記-亡き妻と歩いた600キロ（中央公論新社）など。

- ◆がん治療に携わる医師、メディカルスタッフ及び、患者様、一般の皆様を対象に公開セミナーとして開催されます。
- ◆本セミナーは「東北がんプロフェッショナル養成推進プラン」事業の一環となっています。
- ◆本学大学院生は、大学院授業要綱で規定する共通必修科目（規定の8）に該当します。履修票を忘れずにお持ち下さい。

お問い合わせ：福島県立医科大学教育研修支援課 TEL：024-547-1095 E-MAIL: ganpro@fmu.ac.jp

次回セミナー予定

日時：平成29年3月21日（火）18：00～19：00

場所：福島県立医科大学11号館 第2臨床講義室

平成28年度 第10回臨床腫瘍セミナー  
日時：平成29年2月21日（火）18：00～19：00  
場所：福島県立医科大学11号館 第2臨床講義室